

第33回介護福祉士国家試験の合格基準及び正答について

1 合格基準

(1) 筆記試験の合格基準

次の2つの条件を満たした者を筆記試験の合格者とする。

ア 総得点125点に対し、得点75点以上の者（総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。）。

イ アを満たした者のうち、以下の「11科目群」すべてにおいて得点があった者。

- ①人間の尊厳と自立、介護の基本
- ②人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術 ③社会の理解
- ④生活支援技術 ⑤介護過程 ⑥発達と老化の理解 ⑦認知症の理解 ⑧障害の理解
- ⑨こころとからだのしくみ ⑩医療的ケア ⑪総合問題

(2) 実技試験の合格基準

筆記試験の合格者のうち、次の条件を満たした者を実技試験の合格者とする。

総得点100点に対し、得点53.33点以上の者（総得点の60%程度を基準とし、課題の難易度で補正した。）。

2 筆記試験の正答

領域：人間と社会

人間の尊厳と自立

問題番号	1	2
正答	1	3

人間関係とコミュニケーション

問題番号	3	4
正答	2	4

社会の理解

問題番号	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
正答	2	3	4	3	2	4	2	4	3	1	5	1

領域：介護

介護の基本

問題番号	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
正答	1	2	5	4	1	5	3	4	2	3

コミュニケーション技術

問題番号	27	28	29	30	31	32	33	34
正答	5	2	5	1	3	1	3	4

生活支援技術

問題番号	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
正 答	3	5	4	1	4	1	3	5	3	5
問題番号	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
正 答	2	3	2	5	1	4	4	2	3	1
問題番号	55	56	57	58	59	60				
正 答	5	2	3	3	3	2				

介護過程

問題番号	61	62	63	64	65	66	67	68
正 答	5	1	5	3	2	2	2	1

領域：こころとからだのしくみ

発達と老化の理解

問題番号	69	70	71	72	73	74	75	76
正 答	4	5	3	4	2	1	2	5

認知症の理解

問題番号	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86
正 答	1	1	2	5	2	5	4	3	1	4

障害の理解

問題番号	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96
正 答	3	1	5	5	2	5	3	2	3	4

こころとからだのしくみ

問題番号	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108
正 答	1	4	2	3	5	1	4	2	5	4	1	2

領域：医療的ケア

医療的ケア

問題番号	109	110	111	112	113
正 答	1	5	2	4	1

総合問題

総合問題

問題番号	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125
正 答	1	4	なし	4	1	2	3	5	1	4	5	2

第33回介護福祉士国家試験における正答の取扱いについて

午後 問題116

<総合問題>

(総合問題1)

次の事例を読んで、問題114から問題116までについて答えなさい。

[事例]

(略)

問題116 その後、Jさんは少しずつ回復し、膝の痛みもなく、家の中では何もつかまらずに歩くことができている。一人で散歩に出ようという意欲も出てきた。

Jさんは、介護福祉職にもっと安定して歩けるように練習をしていきたいことや、外出するときは膝の負担を減らすために杖つえを使用したいと思っていることを話した。

Jさんに合った杖つえを使った歩き方として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 杖つえ(左手で持つ)を出す→右足を出す→左足を出す
- 2 杖つえ(右手で持つ)を出す→左足を出す→右足を出す
- 3 杖つえ(左手で持つ)と右足を出す→左足を出す
- 4 杖つえ(右手で持つ)と左足を出す→右足を出す
- 5 杖つえ(左手で持つ)と左足を出す→右足を出す

採点上の取扱い

全員に得点する。

理由

問題文からは、選択肢1と3のいずれも正答となる余地があり、「最も適切なものを1つ」選ぶことができないため、問題として成立しない。